



KONICA MINOLTA

## News Release

# 1983年発売の世界初無段階ズーム機構を搭載した 普通紙複写機「EP450Z」が複写機遺産に認定

2026年6月8日

コニカミノルタ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：大幸 利充、以下 コニカミノルタ）は、その前身の1社であるミノルタカメラ株式会社が1983年に製造を開始し、世界初の無段階ズーム機構を搭載した普通紙複写機「EP450Z」が、一般社団法人日本画像学会より複写機遺産の認定を受けましたのでお知らせいたします。

なお、これまでにコニカミノルタ製品は、2018年に普通紙複写機「U-Bix 480」が複写機遺産の認定を受けています。

### 「EP450Z」について

OA（オフィス・オートメーション）化が進行する1983年当時、複写機業界においても拡大縮小機能の拡充が競われましたが、何段階かのメカニカルな位置決め機構による固定倍率切り替えしか存在しませんでした。そのような中で、CPU制御による任意の倍率設定を可能にした「EP450Z」は大きな支持を受け、「ズームコピーのミノルタ」の名で世に知られるようになりました。



ズーム変倍は、0.640倍から1.420倍の範囲を1/1,000倍刻みに任意の倍率設定が可能で、設定された倍率に合わせてレンズと折り返しミラー位置をパルスモーターで制御し、倍率とピンントを合わせています。ズーム機能と原稿送り装置の組み合わせにより、オート倍率選択機能\*1、オート用紙選択機能\*2を実現し、機能性と操作性を向上させました。

現像方式は、独自のマイクロトニング方式を採用し、マイクロキャリアによる滑らかな中間調画質は高い評価を受け、コニカミノルタの画質へのこだわりの原点として引き継がれています。

「EP450Z」が実現したズーム機能の業界への影響は大きく、1986年以降は、各社の低速機を除く普通紙複写機新製品で、ズーム機能搭載が主流となりました。

\*1 原稿サイズを検知し、設定されている用紙サイズに合わせた最適の倍率を自動的に選択する。

\*2 セットした倍率に合わせ最適サイズの用紙を自動的に選択する。

コニカミノルタは創業以来、カメラ、写真事業で培ってきた画像の入出力、画像処理を中核とする「イメージング」技術を活用して、新しい価値創造を実現してきました。今後さらに、材料、光学、画像、微細加工などのコア技術にAI技術を掛け合わせ、新たな成長領域を切り開いていきます。

### 複写機遺産について

世界をリードする日本の複写機産業の原動力となった初期の複写機の技術的、社会的功績を顕彰し、現存する歴史的複写機に採用された技術を長く記憶にとどめ、後世に伝えるために、日本画像学会により、2018年に複写機遺産認定事業が創設されました。

---

報道関係お問い合わせ先

コニカミノルタ株式会社 広報部

担当：森 080-6831-8727 / 土井 070-3669-8856